

空から見る本土空襲の傷跡（米軍撮影空中写真）



* 米軍撮影空中写真 265

解説

1944（昭和19）年にサイパン島が陥落すると、そこを基地としてアメリカ軍のB29爆撃機による日本本土への空襲が激化し、全国の主要都市や軍事施設が爆撃されました。なかでも1945（昭和20）年3月の東京大空襲では大きな被害を受けました。

山口県でも同年の春から夏にかけて、瀬戸内海沿岸に連なる工業都市が、次々に爆撃を受けました。その深い傷跡の様子を、終戦後、アメリカ軍が撮影した写真に見ることができます。

米軍撮影空中写真は、終戦後間もない1947（昭和22）年から1948年にかけて山口県下全域を撮影したもので、その数は約500枚に及びます。左の写真は岩国駅付近（1947年3月18日撮影）の様子で、まだ爆弾によってできた無数の穴が残っていることがわかります。



* 当館には、米軍撮影空中写真のほかにも、異なる時期の航空写真があります。空からの視点で郷土の移り変わりを追究する授業で教材として利用することができます。右は1975（昭和50）年に県林政課が岩国駅付近を撮影したものです。（林政課空中写真）